

中学校での『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）』活用例

大阪市立本庄中学校
主務教諭 能勢英明

1 自然な英語が満載の『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）』

中学校の検定教科書3学年分の本文を音読し、すべて暗唱できるようになれば英語の基礎ができるとよく言われます。これには一理あると思います。しかし、残念ながら、著作者の努力にもかかわらず、教科書には不自然な表現も見られるのが現実です。これは、使用語彙や文法等様々な制約があるためだと思われます。したがって、一部の教科書を除き、本文そのまますべてを覚えてしまうと弊害も出てくるのは明らかです。10年ほど前、中学生にも使えそうなオーセンティックな学習書を探していたときに『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）』（以下『マーフィー』）に出会いました。本物にこだわってしまう私は「これだ！」と直感しました。当然のことですが、不自然な表現がありませんし、イラストも工夫されています。実際に使ってみると、例文を覚えれば覚えるほど生徒の英語力がアップしていくのを感じました。また、生徒の後々のことを考えると高校1年程度までの内容を中学校で学習しておくほうがよいと考えていました（新学習指導要領ではそのようになっていくようです）から、『マーフィー』を選んで大正解でした。

今、「『マーフィー』はいいよ」とお節介にもあちこちで薦めています。現任校では英語科のスタッフ全員が賛同し、全学年で入学時に購入して3年間活用しています。

2 『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）』と実用英語技能検定

2.1 英検受験

本校では、実用英語技能検定（英検）受験を奨励していて、第1・2回は希望者が、第3回はPTA予算で全校生徒が受験しています。

2017年度の3年生が卒業時（2018年3月）に取得していた級別の人数は次の通りです。

2級	準2級	3級	4級	5級	合計
8名	35名	35名	31名	15名	124名

*卒業生数 142名

なお、2017年度第3回の全校受験をインフルエンザ等で欠席した者が10名、準2級と3級の一次試験に合格したけれども高校入試直前のために二次試験を受験しなかった者が10名いました。これらの生徒が受験していれば5級の人数が減り、3級以上の取得者数が増えていたと思われます。この結果をどうとらえるかですが、生徒はよく頑張ったと私は思っています。

大阪市には130校の公立中学校があり、本校はその中の単なる1校にすぎません。私は2010年に着任しましたが、当時はいわゆる荒れた学校でした。まともな授業ができないことも多く、真面目に頑張ろうとする生徒が馬鹿を見るような環境でした。何事にも教職員が一丸となって取り組む中で、生徒に何か自信を持たせようと始めたことのひとつが英検受験でした。年に3

回実施し、回を追うごとに受験者が増え、2014年3月には、当時の校長、教頭、PTA会長など多くの方々の尽力でPTA予算による全校受験が実現しました。今では落ち着きを取り戻した普通の学校になり、生徒たちは切磋琢磨しながら英語の学習に取り組んでいます。

2.2 動機付け

英検受験から本校が学んだこと、それは、生徒に動機付けを行い、やる気が高まれば自ら積極的に取り組んで期待以上の結果を出す、そんな無限の可能性を生徒は秘めているということです。やる気を高めるのに中心となった教材が『マーフィー』です。

今、1年生を担当していますが、『マーフィー』を使い始める前に、私は次のようにモチベーションアップを図りました。語った言葉は大阪弁ですが、標準語に翻訳して記述します。

「イギリスにケンブリッジ大学という超一流の大学がある。この本は、その大学の出版局が発行している超一流の本だ。外国で作られていることもあって値段が少々高い。高いお金を払っているのは君たちの親だ。親に感謝の気持ちを忘れず、3年間さらには高校へ行ってからもこの本を大切にボロボロになるまで使いなさい。世界中の人たちがこの本で学習して英語をものにしている。次は君たちの番だ。そして、この本を使い倒して中学校卒業までに英検準2級以上をめざしなさい。現実問題として、高校入試で有利になる。たとえば大阪の公立高校の入学試験では、英語のテストの点数がたとえ0点でも英検2級を持っていたら80点、準1級なら100点の扱いということになっている。君たちの先輩には中学で英語の学習を始めて、塾に行かなくても準2級や2級を取った人がいっぱいいるのだよ。もっと言うと、英語教師として一番の願いは英語を通して自分の世界を広げてもらいたいということだ。だまされたと思ってMr. Noseの言う通りにやってごらん。主人公は君なのだから。May the Force be with you.」

では、だまされたと思って(?)以下をお読み下さい。

3 「マイ・マーフィーノート」

『マーフィー』をどのように使っているのか、私が実践している活用法の1つを紹介します。題して「マイ・マーフィーノート作り」です。3年かけて例文集のノートを作ります。『マーフィー』左ページの例文(オレンジ色で■の後にある英文)の語順訳を作成して配布し、それを参考にして、生徒各自が用意した「マイ・マーフィーノート」の左ページに自然な日本語訳(翻訳)を、右ページに英文を書く(左右が逆でもよい)という単純なものですが、効果絶大です。

人は、自分が作り上げた作品は大切にします。生徒たちが3年かけて作る「マイ・マーフィーノート」は、同じものがひとつとしてないオリジナル作品となります。

3.1 「語順訳」

語順訳とは、英語の語順で英文をチャンクごとに訳したものです。例を挙げて説明します。

Unit 4 ■の10番目

The weather is nice. It's not raining.

「天気は・ですーすばらしい」「それは・雨降る最中ではない」

Unit 4 ■の12番目

〔電話で〕 We're having dinner now. Can I call you later?

「私たちは・食べている最中ですー夕食をー今」「私は・電話していいかーあなたにー後で」

主語と動詞はワンセットにして網かけにして示します。英語は語順に意味がある言語ですから、英語で言ったり書いたりするとき、適切な主語と動詞の設定が重要です。主語と動詞の設定ができれば、あとは「誰」「何」「どのように」「どこ」「いつ」といった説明語句を並べていくだけです。だから言いたいことが言えてしまいます。ところが、日本語では主語の脱落がよく生じます。その場合、何を主語に立てるのがわからないと言いたいことが英語で言えなくなってしまいます。また、主語と主題の区別がつかない生徒は、日本語の「～は」を見るとそれを英語の主語に立ててしまいがちです。そこで、このように主語と動詞を中黒点（・）を使ってワンセットで示すことで生徒は英語と日本語の文構造の違いを意識するようになります。これが高校進学後の英語学習で大いに役立つと多くの卒業生が言っています。

3.2 自然な日本語訳

日本語訳をするというのは、「授業は英語で行うことを基本とする」と示された新学習指導要領と矛盾すると思われるかもしれませんが、新学習指導要領では「指導計画の作成と内容の取扱い」の中で、文法事項の指導に当たっての留意事項として「実際に活用できるようにするとともに、語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること」とあることから新学習指導要領は自然な日本語訳を考えさせることを否定してはおりません。

母語以上に外国語の力がつかないのは周知の事実です。外国語として英語を学ぶ日本語母語話者にとって複数言語を同時に学ぶことは言語能力の向上につながると私は確信しています。

さて、生徒の日本語訳例を示してみます。

Unit 4 ■の 10 番目

ノートの右ページ The weather is nice. It's not raining.

ノートの左ページ 例1 天気はいいですよ。雨は降っていないから。

例2 ええ天気やね。雨降ってへんで。

Unit 4 ■の 12 番目

ノートの右ページ 〔電話で〕 We're having dinner now. Can I call you later?

ノートの左ページ 例1 今、夕食中なの。後でかけなおしてもいいかしら。

例2 今、みんなで晩ごはん食べてんねん。後でかけてもええか。

例2のように、自分たちの方言で日本語にするのを生徒たちは楽しんでやっています。楽しいから長く続けられますし、言葉に対する感性も育むので、これはおすすめです。

3.3 「マイ・マーフィーノート」作成計画

中学の3年間にある長期休業の内6回で「マイ・マーフィーノート」を作ります。具体的には、①1年生の冬休み ②1年生から2年生にかけての春休み ③2年生の夏休み ④2年生の冬休み ⑤2年生から3年生にかけての春休み ⑥3年生の夏休み、です。

どの回も、指定する Unit の学習範囲から好きな 100 の例文を選ぶのですが、⑥3年生の夏休みは 200 例文とし、3年間で 700 例文を選ぶことになります。もちろんそれ以上の例文を書いてもかまいませんが、無理はせずに楽しんで行うことが大切だと生徒には言っています。

各回で語順訳を配布しますが、その時期は各学期の期末考査が終わった直後です。そうすることによって、長期休業に入る前から生徒は余裕を持って取り組むことができます。

3.4 「マイ・マーフィーノート」作成範囲

検定教科書を使う授業での学習内容をさらに定着させるという観点から、「マイ・マーフィーノート」の作成による学習が、原則として既習事項の復習となるように Unit の学習範囲を次のように設定しています。生徒には 6 色のペンやマーカーで『マーフィー』の目次ページのユニット番号に印をつけるように指示し、3年間の学習予定が一目でわかるようにしています。

① 1年生の冬休み (20 ユニット)

現在形 (1～9)、過去形 (10～12)、法助動詞と命令文 (31、37)、there と it (40)、基本的な動詞を用いた表現 (59)、代名詞と所有格 (60～63)

② 1年生～2年生の春休み (20 ユニット)

代名詞と所有格 (64、65)、a と the (66～74)、限定詞と代名詞 (75～77)、形容詞と副詞 (86、87)、接続詞と節 (98)、前置詞 (104、107、108)

③ 2年生の夏休み (25 ユニット)

過去形 (13～15)、未来表現 (26～29)、法助動詞と命令文 (32～35)、there と it (38、39)、-ing と「to + 動詞の原形」(52～55)、形容詞と副詞 (88～91)、接続詞と節 (99)、前置詞 (105、106、109)

④ 2年生の冬休み (20 ユニット)

現在完了形 (16～21)、受動態 (22)、動詞の形 (24、25)、助動詞 (41～44)、基本的な動詞を用いた表現 (56～58)、語順 (94～97)

⑤ 2年生～3年生の春休み (12 ユニット+α)

受動態 (23)、法助動詞と命令文 (30、36)、疑問文 (45～50)、間接話法 (51)、限定詞と代名詞 (84、85)、①～④の範囲から各自が追加したいもの

⑥ 3年生の夏休み (19 ユニット+α)

限定詞と代名詞 (78～83)、形容詞と副詞 (92、93)、接続詞と節 (100～103)、前置詞 (110～114)、句動詞 (115、116)、①～⑤の範囲から各自が追加したいもの

4 「マイ・マーフィーノート」の活用

せっかく作ったノートは大いに活用したいものです。生徒には、いつも持ち歩き、日本語を見て英語が、英語を見て日本語が言えるように、そして日本語を見て英語が書けるように、と指導しています。その動機付けとして行っていることなどを紹介します。

4.1 スピーキングテスト

スピーキングテストの 1 つとして、各自が作った「マイ・マーフィーノート」の例文から範

囲を決めて日本語から英語へのクイックレスポンスによる1対1のテストを行います。生徒は、自分が作ったノートからの出題なので準備がしやすく、積極的に取り組んでいます。テスト時には、そのノートを見て思ったことや感じたことをコメントするようにしています。

4.2 役者活動：スターは君だ！

授業での活用例として「役者活動」を紹介します。主人公は一人ひとりの生徒です。

- ①クラスで4人のグループを作る。
- ②各自の「マイ・マーフィーノート」の中からグループとして覚えたい例文を20選ぶ。選ぶ例文はメンバー全員の例文の数ができるだけ均等になるように留意する。
- ③選んだ20の例文の日本語と英語の両方の音読練習をグループで行う。このとき、言語使用の場面を考え、各々が役者になった気持ちで感情を込めて読むようにする。
- ④各グループでカセットテープレコーダーを1台使い、カセットテープにメンバー全員で日本語と英語の両方を声優になりきって録音し、その音声を聞き返して楽しむ。

アナログなカセットは、デジタル世代の生徒には新鮮に感じるようで、この活動を楽しんでいます。

4.3 「マイ・マーフィー」から「アワ・マーフィー」へ

次に、グループからクラス全体の活動に展開していきます。グループで選んだ例文20の中から、さらに各メンバーが選んだものを1つに絞り込み、グループで4つ選びます。たとえば36人のクラスであれば9グループから36の例文が選ばれることとなります。これがクラスで選んだ「クラス・マーフィー」となり、さらに学年の全クラス分を合わせて学年全体の「アワ・マーフィー」の完成となります。クラスが4クラスであれば合計で144の例文が選ばれる計算になりますが、グループやクラスで選んだ例文が重複することもあり、実際には1割程度減少します。これをまとめてハンドアウトとして印刷し、学年の全員に配布します。

覚えたい例文をアクティブに自分たちで選ぶというのがポイントです。また、「アワ・マーフィー」を定期考査の試験範囲に加えていますが、自分たちが選んだ例文という意識からかテスト勉強もより積極的に取り組むようになります。

やがて生徒から「アワ・マーフィー」の音声教材を望む声が出てきます。その際は、有志を募り、英語の例文とその日本語訳を録音して音声教材を作り、活用するのも楽しいです。

5 終わりに

『マーフィー』のすべての例文を「マイ・マーフィーノート」に書き出す生徒や、卒業生の中には、『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）』や *Advanced Grammar in Use* などでも「マイ・マーフィーノート」を作り、楽しく英語を学び続け、英検準1級や1級を取った人たちがいます。そんなアクティブな彼(女)らに刺激をもらって、私も『マーフィー』やそのシリーズで英語力のブラッシュアップをしています。『マーフィー』と出会えたことに感謝し、定年退職まであと1年余、目の前の生徒たちと本物の英語を楽しもうと思っています。